

SISS 参加報告書

文教育学部人文科学科 4 年

柴 美菜子

1.参加の動機・目的

昨年『グローバル化と日本語教育』という授業に参加し、韓国や中国の学生と文化の違い等話し合ううちに、是非一度現地に行って実際に体験したいと思うようになっていた。

2.成果

2.1 多文化交流実習 I

午前の **International Marketing** では 3 コマ構成で授業が行われ、1 コマ目はマーケティング知識に関する講義、2 コマ目はグローバル企業の国際戦略を説明したビデオを視聴し、3 コマ目はビデオ内容に関するディスカッションとその発表という構成だった。授業・ディスカッション・発表が全て英語で行われるため、はじめのうちは自分の意見を英語で伝えることに大変苦労した。この授業に参加している韓国の学生は考えたことをすぐに英語で発言・会話できる学生ばかりだったので、ディスカッションでは思っていることを伝えられないまま次の議題に進んでしまうこともあった。中間レポートは学んだ知識を活かして、ある企業の国際戦略のありかたについて自分の意見をまとめるという内容だった。初めて英語でボリュームのあるレポートを書き、日本語で書く時と比べ倍以上の時間がかかり、自分の英語力の低さを感じた。期末のグループプレゼンテーションでは韓国の学生のパワーポイントを作る技術の高さに驚いた。私が調べた内容を同じグループの韓国の学生がパワーポイントに作り変えてくれたのだが、作成スピードが大変速かった。普段からパワーポイントを使用してプレゼンテーションをする授業が多いため、作り慣れていると言っていた。自分のグループだけでなく、他のグループのプレゼンテーションでも、趣向を凝らしたアニメーションを多用するなど表現力も内容も高い発表ばかりだった。

2.2 多文化交流実習 II

午後の韓国語講座では私は 1 番初級のクラスを受講した。ハングルの母音・子音を学ぶところから始まり、初歩的な会話の内容までを学習した。発音の仕方を逐一練習し、ひとりひとりに大変丁寧に教えてくれる先生であったため、毎回の授業が大変楽しみだった。その日習った単語やフレーズを韓国の友人やお店の店員さんに実際使ってくるのが毎日の宿題と言われていたため、授業外でも韓国語での会話を積極的に行い、自分の発音で伝わるかどうか毎回ハラハラしながら緊張感を持って過ごすことができた。街を歩いていても、看板を読みながら歩くことで新しい単語を学ぶことができた。生徒同士で韓国語を使って実際に会話をし、寸劇を披露する機会も多かったため、習うばかりでなく実際に発音し、それを直しながら学んでいくことができた。韓国語を少しずつ話すことができるようになると、韓国の学生やお店の店員さんともコミュニケーションが以前よりとれるようになり、少し話せるだけでも喜んでくれ対応が温かくなることを感じた。ハングルは 17 世紀という比較的最近に確立された言語であるため、大変合理的にできていると聞いていたが、実際に習ってみると確かに他の言語より苦労せず学ぶことができたと感じてい

る。一度母音と子音の発音を把握してしまえば読めない文字は無くなり、漢字についても日本語と違ってひとつの文字にはひとつの読み方しかありあてられていないので大変分かりやすかった。

2.3 ショートビジットで学んだこと

2.3.1 韓国学生の学習意欲の高さ

授業後に課題をこなすため、図書館に併設されている24時間利用可能な自習専用の個人デスクを使用していた。その際、夏季休暇期間にも関わらず1,000席近くある座席が毎回満席近く埋まっており、また使用時間も12時間を超えている学生が多数いた。日本の大学では試験前の期間でしか、この状態はあまりなく、自習専用の私語厳禁スペースを1000席も用意している大学もないだろうと感じた。他にもIT環境が整備されたグループ学習室も用意されており、グループでプレゼンテーションの準備・練習ができる専用のスペースが用意されていることに驚いた。このスペースはすべてタッチパネルと学生証のICチップで管理されており、入室・退席時刻などが全てネットワークで管理されていた。

2.3.2 英語でコミュニケーションをとる難しさ

私は英語で流暢に会話することができず、韓国の学生・日本の学生・欧米の学生と英語で会話する際に度々内容がわからず、日本の学生に内容を聴き直したりしていたため、その度に会話を止めてしまい、申し訳なく感じた。今まで英語を勉強してきたが実践ではなかなか会話に参加することができず、はがゆい思いをした。授業や留学生同士で会話をする際に、終始英語を日本語に変換し、日本語で考えた内容を英語でどう表現するか考えながら会話する必要があるため、日本人同士での会話以外はストレスを感じる場面が多々あった。

2.3.3 韓国の物価・学生の生活

韓国では円高の関係もあるが、生活必需品や食事代、交通費が大変安かった。中でも交通費は日本と比べて大変割安に感じられて、地下鉄の初乗りが900ウォン、遠い場所に行っても1200ウォン、タクシーの初乗りは2400ウォン程度だった。食事に関しても8000ウォンで美味しい焼き肉が満腹になるまで食べることができた。(今回の留学期間中のレートは100ウォンが約8円)しかし、韓国の学生に韓国は物価が安いと話したところ、韓国では家賃と学費が大変割高であると話していた。旅行で訪れるには最適だが、都市部に居を構え、激しい大学受験の競争を乗り越えるための予備校に通い、英会話スクールにも通学すると生活費はかなり高額になってしまうとのことだった。しかし、韓国の大学では休学や留学中の授業料はかからず、また、日本のように23歳の新卒で企業に入社する学生ばかりではないため、大学受験を終えると入学してから1年間は終日アルバイトをするため休学し、そのお金で1年間英語圏などに留学し、6年かけて英会話を完全に身につけてから学部生を終える学生も多いと聞いた。むしろ、そのようにしてでも英語力を身につけないことには、サムスン・ロッテ・LG・ヒュンダイのような韓国の学生に人気のある企業への就職が難しいとのことだった。

3.まとめ

今回、SISSに参加して一番強く感じたことは、自分の英語力の低さと韓国の学生の学習意欲の高さだ。

韓国のサムスンやヒュンダイといったグローバル企業は国際戦略を強く推進し、入社する学生にも TOEIC 900点以上の英語力と国際的なコミュニケーション能力を必要としていると聞いた。そのため、学生達は自分の専門科目を研究するとともに、英語の予備校に通いながら、夏季休暇中でも夜遅くまで大学に残って自習をしていた。日本企業はまだまだ自動車製造業・通信業以外の分野での世界市場への進出が遅れていることが多く、学生のうちから国際競争力を磨き、日本企業のグローバル化を推進する存在になれるよう努力していく必要があると強く感じた。帰国後も英語を話す機会を意識的に増やし、SISS で出会った学生と同等以上に国際的な競争力を磨いていきたいと思っている。